

東西の冷戦

現状の特定の戦争に限定することではありませんが、東西冷戦についての意見です。

「冷戦」か「第三次世界大戦」であれば冷戦の選択がいいと思います。

冷戦となれば経済及び人的交流など不都合が多いのは当然ですが、世界核戦争よりは懸命な選択です。冷戦状態とは、原則として武力による戦争状態ではないので、人命尊重となり、10年、20年の時間をかけて解決すればいいと思います。

過去の時代の「東西の冷戦」は核戦争抑止のケースとして、人類の歴史上、突出するシステムの一つではないでしょうか。

人の命が大切であることは当然です。

人道的な戦争が存在しないことは、自明の理です。

冷戦を選択してから撤回、又は段階的撤回は可能であり、人命とか物理的被害は最小ですが、核戦争が終結しても多くの核の被害が残ります。

過去の時代、第一次、第二次世界大戦、キューバ危機などの歴史的事実とか、国際連盟、国際連合などの流れを詳しく分析して、国連を脱退するのではなく、「東西冷戦」の選択です。ただ、冷戦となっても話し合いの場は、常にあるべきと思います。

軍事的対立による、経済制裁の繰り返しの到達点を見据えて、最初から西側圏と東側圏が独立した経済圏として活動を開始する案です。市場が約半分になりますが、西側から言えば、東側への輸出が消滅しますが、東側からの輸入に相当する市場が増加します。西側が制裁の到達点としての鎖国を、東側へ通知するか、東側が鎖国を西側へ通知すれば成立するのでしょうか。シェアの減少と言うマイナスはありますが、別の世界となる相手圏との戦争は回避できるのではと思います。

西側と東側による自給自足の経済ですが、例外として、エネルギーとか、他圏にしか存在しない物などは、国家が中心となり購入契約をする統制経済システムは必要です。

人の移動は本来自由ですが、西側圏内、又は東側圏内の移動は自由とし、それ以外は国と国が同意すれば自由とするなどです。

冷戦状態でも、東西の対立する主張の解決に向けての、武力ではない和平交渉と、人道援助、一般人の救済と援助、難民救済と言ったことは、行う必要があると思います。

特定した国のことではなく、一般論として、ミサイル先制攻撃が可能と仮定して、先制攻撃をした場合、相手国は反撃として原発へのミサイル攻撃は必至であり、まず、コンピューターシュミレーション分析を公開して、国民投票などの判断材料とすることが必要と考えます。戦争当事国及び近隣諸国は、核兵器を保有していなくても、原発を所有していれば、通常ミサイル攻撃で核戦争参加に匹敵する被害があると考えます。

高性能の地対空ミサイル、電磁バリア、レーザー照射により核ミサイルを爆破するなどなどの予算計上をして、防衛システムをほぼ完璧にするのが先決で、その後の議論と思います。

スポーツ選手には責任はなく、スポーツを極めたその時期しか記録への挑戦が出来ないので、記録を無駄にすることなく残す目的で、西側とは別に、東側ワールドカップ、東側オリンピック・パラリンピックを開催するのもいいと思います。

これから起こる戦争は、軍事侵攻をして戦争が激化する前に、一般人の避難を進めるため、戦争当事国で「非武装地帯」の取り決めをして、非武装地帯の国連の承認が得られれば更にいいですが、本格的な武力行使は、それ以降とすれば、一般人の避難場所は国内に簡易住宅を作るなどすれば、国内で多くの人の安全が確保されます。自国内を中心に近隣国に避難が出来たことを確認してから、非武装地帯以外での戦闘開始であれば、一般人の死傷者や難民は殆どいないと言う、未来の戦争が実現するかもしれません。 (2022.4.17)